



なくてはならないもの 第3回 (全4回) (クリスチャンの生活と証コース、および愛を示そうシリーズより)

神のみことばを握りしめる！

先週、信仰の成長には神のみことばが不可欠であることを改めて教えられました。サタンの攻撃をかわし、私たち自身の肉に流されずにいるには、強い信仰が必要であることも話しました。

信仰の盾の大きさが違いを生み出すことや、信仰の成長には神のみことばを聞くことが必要であることを学びました。

その他に、神のみことばが両刃の剣よりも鋭く、私たちの心にある考えや意思を判別することができることもわかりました。神からのものかそうでないかを見分けるのです。

私たちにこのような守りが与えられていると知れば、安心できます。とは言え、守りがあるからと言って攻撃が止むわけではありません。常に攻撃されるのはうっとうしいものです。しかし、良い知らせがあります。

神のみことばは両刃の剣よりも鋭いのです。つまり、霊の武器として使えるということです。

エペソ 6:17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える**剣**である、神のことばを受け取りなさい。

2コリント 10: 4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

神のみことばは全能です！

けれども、私たちはその使い方をわかっているのでしょうか。

トールキンによる古典作品が原作の映画「ロード・オブ・ザ・リング」三部作の第二作「二つの塔」にこれをうまく描いたシーンがあります。

その場面はこうして始まります。
凶暴で醜い巨体のオークが何千何万とやってきて、要塞を包囲しました。要塞には、数百人の仲間しかいません。それもほとんどが老人と子供たちです。
その要塞の中で、勇士アラゴルンと少年が出会います。

階段にひとり座るアラゴルン。
剣を手に困惑した様子の少年を見つける。
アラゴルン：「その剣を見せてくれ・・・」
アラゴルン：「おまえの名は・・・」
ハレス：「ハレス・・・ハマの息子です。」
ハレス：「みんなが言ってます・・・朝まで生きられない、もはや望みは絶たれたと・・・」
立ち上がり、剣を振りかざすアラゴルン。
アラゴルン：「すばらしい剣だ・・・ハマの息子、ハレス！」
少年の肩に手を置いて言う。
アラゴルン：「・・・常に望みはある・・・」

まさにそのとおりです。

詩篇 130:5 私は【主】を待ち望みます。私のたましいは、待ち望みます。私は主のみことばを待ちます。

神のみことばに希望を見出せます。

アラゴルンには希望がありました。

けれども、ここで気付かなければならないのは、アラゴルンが剣（神のみことば）の使い方を知っていたことです。でも、あの少年はどうでしょう。自分の剣の使い方わからずに、希望はあるのでしょうか。

このことを絶妙にあらわす例が、イエスご自身の人生に見られます。

それはマタイ 4 章にあります。イエスが洗礼を受けられ、公生涯を始められる前のことです。

イエスは御霊に導かれて荒野に行かれ、そこで四十日四十夜断食されました。この肉体的に最も弱った時に、サタンがイエスを誘惑しにやってきます。

マタイ 4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」

マタイ 4:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」

マタイ 4:5 すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、

マタイ 4:6 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから。」

マタイ 4:7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」

マタイ 4:8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、

マタイ 4:9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」

マタイ 4:10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」

マタイ 4:11 **すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。**

イエスは3つの誘惑すべてを乗り越え、サタンを打ち負かしましたが、どのようにしてそうできたのでしょうか。それは、神のみことばを引用することによってです。

サタンは最終的にイエスから離れましたが、私たちがサタンに離れてほしいと思うなら、みことばの使い方を知っているだけでなく、戦いが続く限り神のみことばをしっかり握っている必要があります。

2サムエル23:9 彼の次は、アホア八人ドドの子エルアザル。ダビデにつく三勇士のひとりであった。彼がペリシテ人の間でそしったとき、ペリシテ人は戦うためにそこに集まった。そこで、イスラエル人は攻め上った。

23:10 彼は立ち上がり、自分の手が疲れて、手が剣について離れなくなるまでペリシテ人を打ち殺した。【主】はその日、大勝利をもたらされ、兵士たちが彼のところに引き返して来たのは、ただ、はぎ取るためであった。

エリアザルはわかっていました。剣を失ったら、命を失うと。

ですから、剣が自分の命の源であるかのようにしっかりと握りしめました。

私たちはどうでしょう。私たちは、神のみことばが命の源であるかのようにしっかりと握りしめていますか。

私たちの人生で主に大きな勝利を収めていただきたいなら、私たちの手も神のみことばにしっかりとつかまっていなければなりません。

神のみことばをしっかり握ってほしいですか。
文字通り、聖書を手でしっかり持つこともできます。
しかし、霊的にはどうでしょう。
手の指にたとえて、信仰によって握ることについて考えてみましょう。

1.小指：「聞く」

教育の専門家によると、人は耳で聞いたことの**10%**を覚えているそうです。

イエスはおっしゃいました。

ヨハネ**14:26** しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

聖霊に神のみことばを思い起こさせてほしいと思うなら、まず、神のみことばを聞く必要があります。

ローマ10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

神のみことばを聞くことで、信仰の成長が始まります。それだけでなく、学習全般に共通することですが、習得過程に努力を惜しまなければ、そのぶん効率が上がります。

2.薬指「読む」

神のみことばを自分で読むことによって、記憶量が**20-25%**アップします。

申命記17:19 自分の手もとに置き、一生の間、これを**読ま**なければならない。それは、彼の神、【主】を恐れ、このみおしえのすべての**ことば**とこれらのおきてとを守り行うことを学ぶためである。

みことばを自分で読むと、耳で聞いた言葉を確認できます。

ベレヤの人々はパウロが言ったことを鵜呑みにしませんでした。彼らは自分でみことばを読んで、それが本当かどうか確認しました。

使徒17:11 ここのユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。

3.中指「学ぶ」

学ぶことによって、記憶量は**50%**アップします。

私たちは神のみことばを学ぶ**生徒**であるべきです。

勉強はどうやってしますか。教科書を読んだり、ノートをつけたり、線を引いたり、分からない単語を調べたりします。

イエスの弟子（生徒）である私たちも、教科書である聖書を同じように勉強して当然でしょう。

箴言2:1 わが子よ。もしあなたが、私のことばを受け入れ、私の命令をあなたのうちにたくわえ、

2:2 あなたの耳を知恵に傾け、あなたの心を英知に向けるなら、

2:3 もしあなたが悟りを呼び求め、英知を求めて声をあげ、

2:4 銀のように、これを捜し、隠された宝のように、これを探り出すなら、

2:5 そのとき、あなたは、【主】を恐れることを悟り、神の知識を見いだそう。

2:6 【主】が知恵を与え、御口を通して知識と英知を与えられるからだ。

聖書を学ぶ方法はたくさんありますが、私自身が学んで役に立ったと思うのは**帰納的バイブルスタディ**という方法です。

この方法は、次の3つの言葉でおおまかに説明できます。
観察（かんさつ）、解釈（かいしゃく）、適用（てきよう）

✓ 1.聖句を**観察**する。

聖書箇所を熟読し、キーワードやフレーズを探す。

✓ 2.聖句を**解釈**する。

この個所の言いたいことは何か、どういう意味かを考えます。

聖書の注釈書や資料はたくさんあって役に立ちますが、何よりも覚えておくべきことは、最良の聖書注釈書が聖書自体だということです。

というわけで、コンコルダンスや引照の付いた聖書をお勧めします。
こういった簡単なことで、みことばがずいぶん学びやすくなります。

では、聖書箇所を解釈した後は、

✓ 3. 聖句を自分自身の生活に**適用**する。

私自身にとってどういう意味だろうか、神は私に何をしてほしいと願っておられるのか、今読んだことを日常生活にどう当てはめればよいか、などを考えます。

どんな科目や課題にも言えることですが、みことばも学べば知識や理解が格段に深まります。

✓ 4. 人差し指「覚える」

記憶量**100%**

詩篇119:9 どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。

119:10 私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。

119:11 あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。

箴言7:1 わが子よ。私のことばを守り、私の命令をあなたのうちにたくわえよ。

7:2 私の命令を守って、生きよ。私のおしえを、あなたのひとみのように守れ。

7:3 それをあなたの指に結び、あなたの心の板に書きしるせ。

何でも覚えるときはどうやって覚えるでしょう。復習することです。徹底した復習です。

だから、私たちは神のみことばを読んで学びつづけるのです。

何でもそうですが、つづけなければ忘れてしまうからです。

一夜漬けでテストの答えを全部暗記して100点を取っても、次の週に復習せずに同じテストを受けたらどうなるでしょう。

覚えたとしても、記憶はあせるものです。忘れることもあるのです。

では、どうやって記憶を保てばよいのでしょうか。

✓ 5. 親指：「思いめぐらす」

思いめぐらすとは、何かについて深くじっくり考えることです。

詩篇1:2 まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。

1:3 その人は、水路のそばに植わった木のようだ。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

私たちは神のみことばを思いめぐらす必要があります。

たとえて言うなら、

私たちは霊的に牛のようになるべきです。

どういうことかと言うと、牛には胃が4つあります。4つの胃が複雑な消化機能を果たします。

牛が草を食べると、その草は第1胃に入ります。後に反芻するため口に戻ります。

その後第2胃に送られます。そしてまた反芻され、第3胃に送られます。さらに反芻された食物はついに第4胃に送られます。

その結果、牛は食物から多くの栄養素を摂ることができます。長時間の反芻で分解されるからです。

同じように、私たちが神のみことばを読むとき、その内容について考えるべきです。そして、一日中その内容について考えつづけるべきです。日常生活にどう当てはめればよいかを考え、みことばからできるだけ多くの霊的营养素を得ましょう。

主はヨシュアにこう仰せられました。

ヨシュア1:8 この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。

神のみことばをしっかり握っていたいなら、次のことをお勧めします。

✓ 1. 毎週教会に来て、みことばを聞きましょう。

✓ **2. 毎日聖書を読みましょう。**

✓ **3. 聖書を学びましょう。**

ノートをつけたり、質問したりして、答えを見つけましょう。

✓ **4. みことばを覚えましょう。**

徹底的に復習して、忘れないようにしましょう。

それに一番の方法は、

✓ **5. みことばについて思いを巡らしましょう。**

思い起こすよう努めるのです。一日中、みことばについて考えましょう。

イエスはおっしゃいました。

ヨハネ 8:31b 「もしあなたがたが、わたしの**ことばにとどまる**なら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。

とどまる、神のみことばにしっかりつかまって、離さないことです。

祈りましょう。